

はらじゅくかわら版

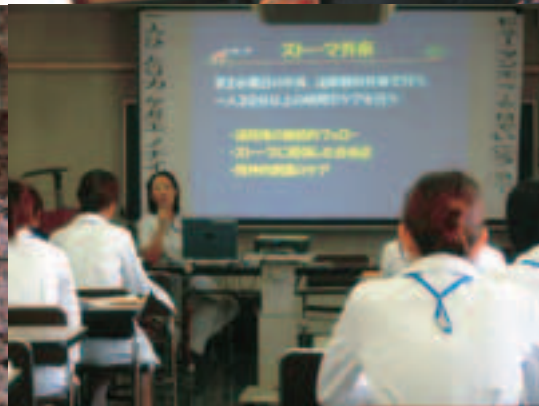


独立行政法人 国立病院機構 横浜医療センターの理念

私たちは、患者さまの人権を尊重し、思いやりの心をもって安全で納得していただける**患者様中心の医療**を目指します。

私たちは、急性期の地域医療を基盤として質の高い総合的な専門医療を提供すると共に、関係医療機関と密接な連携をもつ**地域完結型医療**を目指します。

私たちは、健全な病院経営を心がけ、患者様がより良い医療が受けられ、**地域で選ばれる病院**になるべく日々努力していきます。



第8号 目次

地域で直そう自分の病気	1
地域医療連携	
病診連携施設紹介	3
便利な胃・大腸がん術後長期連携パスのご紹介	4
地域医療連携室から	5
お知らせコーナー	
病院機能評価を受審して	7
医療安全管理室より	8
学校だより/H16卒業式	9
シリーズ	
時節の病気 ーうつ病について知っていますかー	10
職場紹介/産婦人科・リハビリ科	11

行事等紹介

感謝状贈呈/医師の人事異動	12
新任医長就任挨拶	13
患者数の動向/編集後記	14
外来担当医表/表紙	15

発行 月：平成17年4月
 発行 行：独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター
 広報委員会
 発行責任者：高橋 俊毅
 住 所：横浜市戸塚区原宿3-60-2
 電 話：045-851-2621
 F A X：045-851-3902
 U R L：<http://www.hosp.go.jp/~yokoham/>

地域で治そう自分の病気

独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター



統括診療部長 西山 潔

日本医師会総合政策研究機構（日医総研）が実施した4カ国（日本、韓国、アメリカ、フランス）の標準的な地方都市（日本では人口20万の沼津市）での意識調査の結果、日本では「かかりつけ医」を持っている人は全体の52.5%に過ぎず、アメリカ、フランスの84.8%、92.2%に比し非常に少なかった。

「かかりつけ医の有無」と「受けている医療への満足度」との間には、強い関連がみられ、「かかりつけ医」がいる人はそのうち81.1%が「受けている医療に満足している」のに対し、「かかりつけ医」がない人は54.5%であった。韓国、アメリカ、フランスにおいても、日本と同様、「かかりつけ医」を持っていると医療に対する満足度が高くなる傾向がみられた。「満足する医療を受ける」ためにも「かかりつけ医」を持つ意義は高く、その普及度を高めることが非常に大切である、と報告している。ここでいう「かかりつけ医」とは「気軽に相談できる顔なじみの医師や家庭医」のことである。（「医療に関する意識調査の国際比較」—4カ国の地方都市において—No.105（平成16年10月22日）日医総研）

体調が悪いとき、風邪かなと思ったとき、また下痢などしたときどうしていますか。まず近くの医院・診療所を受診しますか？ 今流行のインターネットで適切な診療所・病院を探して受診しますか。あるいは、最新の医療設備が整っている大きな病院へ行きますか？ いきなり大学病院とか大きな病院へ行くことが最適でしょうか？

当院では、地域の診療所の先生との関係はどうあるべきか、ということから考えてきました。地域内の診療所や病院は、それぞれの特性を活かし、その地域内で役割を分担し、患者様の病気を治していくことが大切であり、病院においても、地域のニーズに沿った病院機能を持ち、自らの役割を明確化する必要があります。当院の地域における役割は、「地域で治そう自分の病気」・「地域医療連携」ということを基に、①「かかりつけ医」・「他の医療機関」からの紹介患者様への質の高い医療の提供、②救急車などからの緊急あるいは重症な患者様の救急医療の実施③CT・MRIなどの高額医療機器等の地域での共同利用④地区の医療に携わる人（医療従事者）の資質向上のため研修を行う、等であると思います。

当院は「急性期医療を施す高度総合急性期病院」を目指しております。当院での急性期の治療や



検査が落ち着いたら、①紹介状を持参された患者様は、紹介元の診療所へ逆紹介いたします。②紹介状なしで来られた患者様は、最適な診療所などの先生に紹介いたします。退院すると当院との関係が完全に切れるのではないかとと思われる患者様もいらっしゃると思いますが、決してそうではなく、再び病院での治療・検査が必要なときには、「かかりつけの先生」からの連絡を受け、いつでも再び治療・検査をいたします。ご協力下さいますようお願いいたします。患者様が医療に満足していただくためにも、まず「かかりつけ医」をお持ちいただき、その先生の紹介で病院を受診することがこれからの病院の上手な利用法ではないでしょうか。

当院では現在、他の医療機関から紹介状を持たずに受診される患者様から「初診にかかる特定療養費」として1,575円をいただいておりますが、病院と診療所のなご一層の機能分担を図る（かかりつけ医制度促進の）観点から、初診にかかる特定療養費を平成17年5月1日から3,150円といたします。なお、紹介状をご持参の方は上記の特定療養費の対象となりません。患者様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後に、当院が地域連携医療を発揮するには、地域の皆様、近隣の医療機関との連携を基礎に求心力を発揮する必要があります。この求心力を発揮する役割を担っているのが「地域医療連携室」です。「地域で治そう自分の病気」ということを基に、連携システムを効率的に機能させて、地域の患者様、ご家族が安心して治療の継続と療養ができるよう、「患者様のための」、「患者様中心の」、そして「患者様参加型の医療」を支援する役割を担っております。当院の「地域医療連携室」は、当院の中では一等地に位置しておりますので、地域の先生方、患者様、御来院の際には是非「地域医療連携室」にお立ち寄り下さい。



地域医療連携

病診連携施設紹介

相沢医院

診療科目：内科・小児科・心療内科



相沢院長（上段、左）

相沢医院は、戸塚駅東口より柏尾川プロムナード沿いの桜並木・吉田大橋に程近い、国道一号線元町バス停前にあります。

当院は家庭医として患者さんの心の状態、家族、生活習慣、生活環境などにも気を配る、全人的医療に努めております。また専門外来として、予約制で糖尿病、甲状腺、心療内科を行っております。かかりつけ医は患者さんの診療情報を多く持ち、病気にかかった時に第一に選択される医師であるべきと考え、微力ながら努力しているところです。

幸い、横浜医療センターをはじめとする戸塚区内の病院では、かかりつけ医との効率的な医療連携が確立されております。その結果、質の高い医療情報をご提供頂くことにより、患者さんが安心して一貫性のある診療を受けることが出来るようになりました。

どうぞ今後も地域に密着した横浜医療センターが益々発展されますよう祈念しております。引き続きご指導を頂けますようよろしくお願いいたします。

相沢医院 院長 相沢洪志



相沢医院

〒244-0817 戸塚区吉田町651

TEL 045-881-0375 FAX 045-865-0306

診療時間

平日 9:00~11:30 14:30~17:30

土曜 9:00~11:30 14:30~ 予防接種、乳幼児健診

休診：木曜、日曜、祝日

便利な胃・大腸がん術後長期連携パスのご紹介

外科医長佐藤靖郎

患者様ご指定の診療所でも胃・大腸腫瘍の術後の外来診療が可能です。

従来国内の医療施設では、胃がん・大腸がんの手術とともに外来診療・検査なども当該施設で行ってまいりました。しかし、治療成績の進歩とともに再発する患者様の割合が徐々に減少傾向にあることも言われてきております。

一方、定期的外来通院には外来の待ち時間の長さの問題になってきております。特に仕事をお持ちの患者様、病院からの距離が遠い患者様には定期的な外来通院が非常にきついと感じられておられる方もいらっしゃると思われまます。

そこで近所の診療所の先生方に定期通院していただき、病院へは半年に一度程度いらっしゃるだけであれば患者様の負担が時間的にも金銭的にも減少すると思えこの計画書を作成しました。

そのようなことができるためには、

治療方針が現在の医学レベルで妥当なものであり、それを診療所の先生にも受け入れて頂けることが必須です。そのために当院では文献より胃・大腸がんのステージ別に治療方針を明確にし、それをもとに診療、検査計画を立てました。

以下が診療所の先生と我々が共有する計画書（パス）です。

実際には病院と診療所に一人の患者様につき、1通ずつ保管いたします。

それをもとに診療所の先生が具体的な投薬、採血、画像検査、内視鏡検査を行います。

胃癌・大腸癌Stage I 術後長期連携パス(医療者用)

項目	病院	連携先(診療所)における治療計画						
		1	2	3	4	5	6	7
患者氏名								
性別								
年齢								
病歴								
手術								
術後経過								
検査								
治療								
その他								

以下にこの計画書の特徴をあげると

1 手術後5年間の長期診療計画書です。

病院、診療所での共通の診療計画書です。ご自分の検査、治療の予定をわかりやすくご説明してあります。患者様にこのシステムをご了承していただいた場合、診療計画書とともにこの治療計画を作成した文献集など一連のキットを診療所の先生にお送りし、共通の認識のもとに診療に当たります。

2 病院に受診していただくのは半年に1回です。

それ以外は診療所に受診していただきます。診療所は午後、夕方、土曜にも診療していることが多く患者様のご都合に合わせて検査、治療等が可能です。

3 CT検査は当院で行います。

診療所よりの予約で検査結果は当日お持ち帰りできます。検査結果の判断のための外来受診回数が3回から2回に減ります。その他ご希望で当院での内視鏡検査、他の診療所での内視鏡検査にも対応できます。

4 患者様の治療にやさしいシステムです。

自分の状況、希望に合わせてもらえることは待ち時間の大幅な減少につながり、費用の節約につながります。

以上簡単ですが、胃・大腸がん長期連携パス（診療計画書）の説明をさせていただきました。興味のあるかたは（先生、患者様）当院外科までご連絡ください。

地域医療連携室から

セカンドオピニオン外来についてのご案内

- セカンドオピニオンとは
自分の病気の診断や治療方法について、今かかっている医師以外の医師の意見を聞くことをいいます。それにより患者さんご自身が治療方法を決定するための参考意見を提供するものです。
- 相談対象者及び内容
 - ・ 現在、どこかの病院にかかっており、また、かかったことがあり、主治医から診断や治療方針の説明を受けた方で、示された治療方針等について迷っている方、あるいは、他に治療方法はないかと考えている方、またはその家族を対象といたします。ただし、家族のみで相談する場合は、原則として本人の同意を必要とします。
 - ・ 相談内容は診断や治療に限るものとし、医療訴訟や医療給付などの相談は対象外とします。
 - ・ 相談内容によっては、セカンドオピニオン外来よりも一般外来の受診を勧める場合もあります。
 - ・ 現在当院で受診中の方で、他の医療機関のセカンドオピニオンを希望される場合は、遠慮なく主治医にお申し出ください。
- 相談日時（完全予約制）
 - ・ 月曜日～金曜日、8時30分～12時00分
 - ・ 原則として、相談時間は30分までとしております。
- 相談場所
医療相談室②（外来棟2階セカンドオピニオン室）
- 予約方法
 - ・ 予約手続きは、地域医療連携室で行います。
 - ・ 郵便かファクシミリで送付されてきた申込書に基づき、担当医と日程等調整のうえ予約日時を決定し、相談者へ連絡をします。
- 当日ご持参いただくもの
 - ・ 紹介状
 - ・ 検査資料（レントゲンフィルム、血液検査データなど）
- 相談診療科と担当医
 - ・ 高橋俊毅院長
 - ・ 青崎正彦副院長
 - ・ 西山潔統括診療部長
- 相談費用（自費扱いとなります）
30分までは5,250円（消費税込み）とし、最長1時間までとします。

申込み・問い合わせ先（9時00分～17時00分）

〒245-8575

横浜市戸塚区原宿3-60-2

独立行政法人国立病院機構

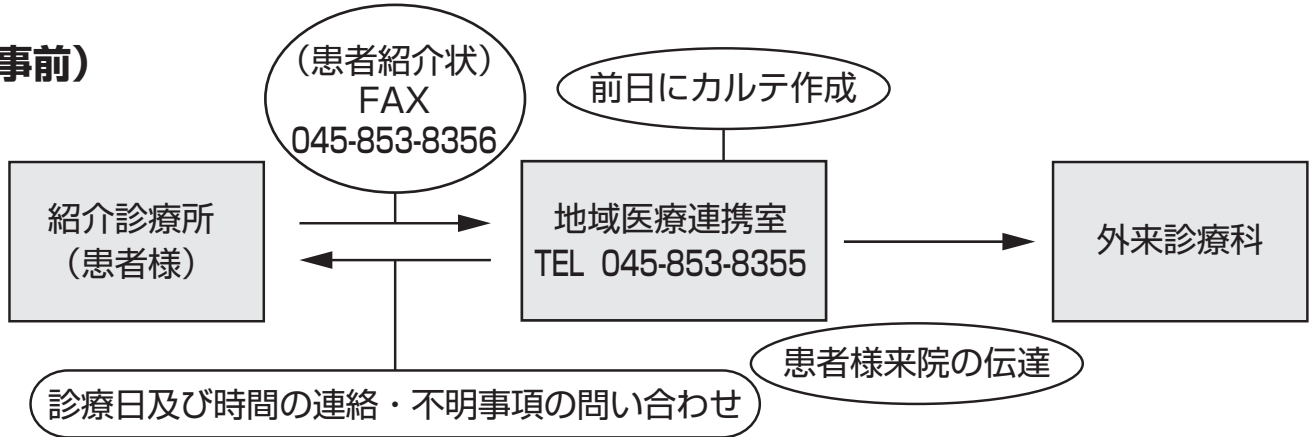
横浜医療センター地域医療連携室

電話 045-853-8355 Fax 045-853-8356

E-mail yokohama-iryuu@oregano.ocn.ne.jp

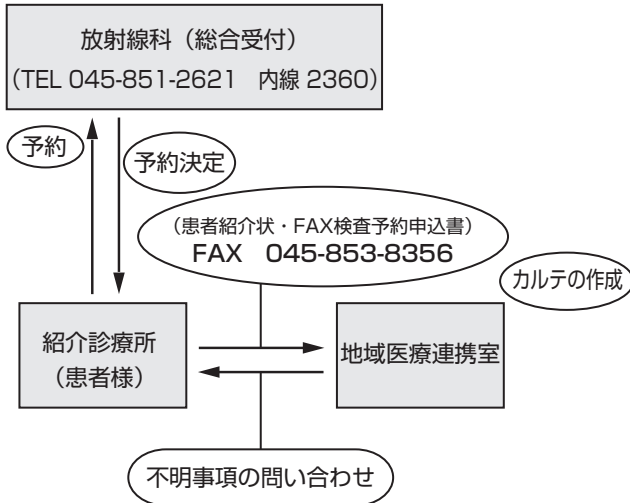
診察の予約紹介フローチャート

(事前)



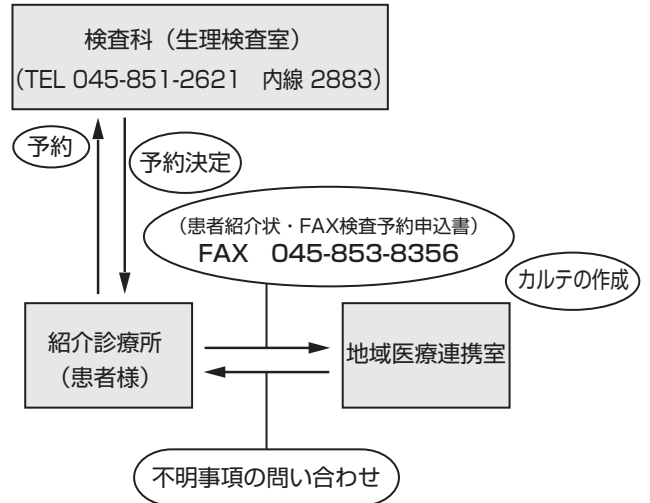
CT・MRI・RI検査予約フローチャート

(事前)



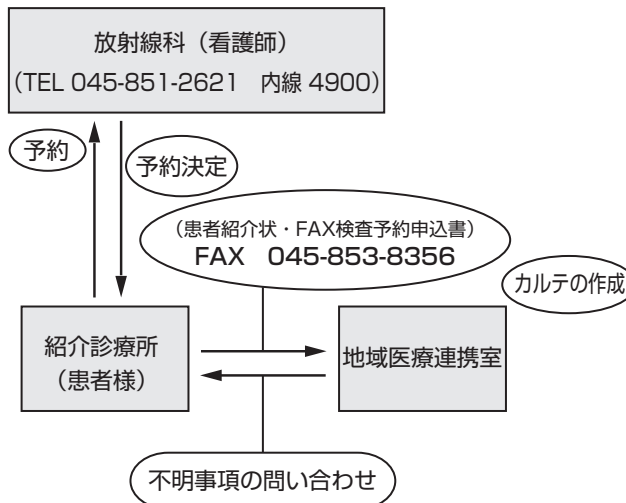
超音波・脳波検査予約フローチャート

(事前)



放射線治療予約フローチャート

(事前)



病院機能評価を受審して

統括指導チーム
企画課長 茂木幸男

本年3月22日から24日の3日間、財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審しました。

当センターの理念である「患者さま中心の医療」、「地域完結型医療」、「地域で選ばれる病院」の三本柱を実践できているかどうかを検証するには、内部で行う自施設の評価には限界があり、どうしても第三者による評価が必要であるとの院長の思いから、受審に至りました。

病院機能評価は、一般病院・精神病院・長期療養病院の3種別があります。全種別に共通する評価項目体系（第1～第6領域）の他に、「精神科に特有な病院機能」（第7領域）を受審。ver.4.0の第1～第6領域は、各領域の枠組みを示す72の大項目、直接評価の対象となり、評価調査者（サーベイヤー）によって評点される178の中項目、そして、各中項目を客観的かつ的確に判定するための評価項目である577の小項目から構成されています。ver.3.11までは診療部門、看護その他のコメディカル部門など、個々の体制が重要視されていましたが、これらに加え患者の安全、医療の情報化への対応、ケアプロセス（診療・看護の過程の評価）といった評価の視点が導入されていました。



病院機能評価の受審は、評価を行う評価調査者（サーベイヤー）による「訪問調査」と、それに先立って行われる「書面審査」からなり、事前に審査書類に記入し提出します。書面審査には自己評価調査が含まれており、中項目は「極めて適切」～「適切でない」の5段階で、小項目は「適切」「中間」「適切でない」の3段階で評価を行うなど、自主的に問題点を明確化し、その改善を図ることが求められます。

当院では各評価項目をクリアするために、昨年7月7日に病院機能評価受審準備プロジェクトチーム（10チーム）を設置し、第1回合同会議を開催しました。その後月1回（8月は除く）合同会議を持ち、その間プロジェクトチーム毎の委員会を開催し、受審に先立ち、資料・文書・統計・記録・規程など、各領域ごとに準備しておかなければならない文書の一覧が示されているので、現行の書類を見直したうえで、不足しているものを補うための準備作業を進めてきました。この準備作業により各部署の職員が定期的に話し合うことで、自分たちの仕事の認識が深まり、他部署の業務を理解することで、意思の疎通が図られたのも大きな成果であったと思います。

当センターの一番の不安は、第3領域「療養環境と患者サービス」でした。機能評価はシステム中心であっても病棟改修等、大きな改修工事がなされておらず、第3領域を担当した「アメニティプロジェクトチーム」では、限られた予算の中で床、壁、ドア、手摺りの補修等々によって、依然とは比べものにならない明るい療養環境となりました。

また経費の削減から、外回りの清掃や天井露出配管の清掃など、院長自ら作業に参加し、「職員でやれることは職員で」と、各職場から多数の協力を得られたことは、センター全体で取り組もうとの気持ちが広がる転機となりました。

第三者評価の受審に向け、良質な医療の提供を実現するために業務の見直し・改善などを行うことは、結果的に地域で選ばれる病院となります。

最大の目標は認定を受けることにありますが、結果が出るのは3ヶ月後になる予定です。この受審をスタート地点と考え「継続は力なり」で、今までの成果を無にすることなく引き続き業務の見直し・改善などを行って健全な病院経営を心掛け、横浜医療センターの建て替えに向けて、共に進んでいきましょう。病院機能評価の受審ご苦労様でした。

お知らせコーナー

医療安全管理室より

指差し声だしの確認行動で ヒューマンエラー ゼロでいこう ヨシ!

本年1月、関東信越厚生局管内の独立行政法人国立病院機構6施設で医療安全管理者研修会が開催されました。

医療安全のためのヒューマンエラー防止対策として、実技を加えた『危険予知訓練(KYT)』を2日間実施しました。

日頃、指差し確認、声だし確認の必要性を事あるごとに話してきましたが、意識して訓練・実践していけば必ずできることを実感しました。

この研修を機会に、今年度の新採用者(看護師・研修医・コメディアル)には確実に『指差し 声だし』の確認行動が自分で出来ることを目標に研修会を組みました。臨床の先輩職員のみならず、意識して、確認行動の徹底と新人のバックアップをお願いいたします。

確認行動を忘れずに!



指差し確認 声だし確認



研修後、さっそく、県内6施設(左から箱根・南横浜・横浜・相模原・神奈川・久里浜)の専任リスクマネージャーによる力強いタッチ・アンド・コール

横浜医療センター病例検討会・研究会開催のお知らせ

西横浜整形外科症例検討会

開催日時 毎月第3木曜日 午後7時～

開催場所 当院大会議室

連絡先 日塔整形外科医長
045-851-2621 (代)

横浜藤沢消化器疾患研究会

開催日時 毎月第3月曜日 午後7時～

開催場所 当院大会議室

連絡先 小松消化器科医長・松島消化器科医長
045-851-2621 (代)

各症例検討会・研究会にご興味をお持ちの先生は、どなたでも参加を歓迎いたしますので、ご連絡下さい。

平成16年度 卒業式

白梅が咲き誇る、平成17年3月2日に、第40回生の卒業式が挙行されました。

当看護学校ではこれまでに、1,456名が卒業し、保健師・助産師・看護師・養護教諭等としてそれぞれ活躍しております。また、昨今の国際化時代を反映し、海外で研修を受け、活躍している卒業生も増加しております。

平成7年3月の卒業生より専門士（医療専門課程）の称号が付与されています。

第40回生は平成16年4月に「独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター附属看護学校」と校名変更してから始めての卒業生となります。33名がそれぞれの希望を胸に卒業となりました。

第40回生の約1割が保健師・助産師・養護教諭等への進学、その他の学生は独立行政法人国立病院機構や国立病院、官公立、法人の病院への就職が決定しています。

去る平成17年2月27日には、第94回看護師国家試験を受験しました。この国家試験に合格しなければ、看護師として働くことはできません。国家試験の全員合格を祈りつつ、33名の前途が洋々たるものであるよう期待しているところです。皆様も社会に羽ばたく第40回生をどうぞ暖かく見守り、また、ご指導下さいますようお願い申し上げます。



看護学校教員 村田真紀子



卒業に向けて思うこと

私は、人と接することが好きである。人との触れ合いが密接で、やりがいのある仕事である看護師になりたいと中学生の頃から思っていた。そして、看護学校に入学したが、学ばなくてはならないことがたくさんあり、学校生活はとても忙しく、大変だった。しかし、実習を通して多くの患者様と接していく中で、学校での勉強だけでは得られない貴重な体験や喜びを味わうことができた。患者様に合ったパンフレットを作成し、とても喜んでいただけたことがあった。また、お話しを一緒にしているだけでも患者様から楽しそうな明るい表情が見られ、「楽しい」と言っていただけたこともあった。また、片麻痺と意識障害のある脳梗塞の患者様と日々接し、援助していく中で、最初は全介助だった食事摂取動作が日に日に自分で上手にできるようになっていった。このように学生という立場から患者様から多くの学びを与えていただいた。また、自分の看護や関わりを通して患者様から感謝していただけたら、患者様と一緒に回復過程をみていくことができ、喜びもたくさんいただいた。そして、看護という仕事のやりがいを感じ、「看護師っていいなあ」という気持ちがよりいっそう強くなった。そして、私が看護師になった時には、このようにたくさんの患者様から学んだことを忘れずに大切にして看護師の役割を果たしていけるようにしたい。



卒業生 石井 綾

時節の WINTER 病 気

シリーズ

～ うつ病について知っていますか？ ～

精神科医長 小澤 篤嗣



どんなものにも許容範囲というものがあるはずですが、始めからそれを知っている方はほとんどいないようです。自分から選ばれたか、そうでないかに関わらず、新しい生活や状況が始まると、予想外のストレスがその人、そしてその人の身体、身体の一部である脳にもかかります。

大概のストレスは、脳の薄皮にあたる「大脳皮質」で考えたり工夫したりで対処します。もちろん記憶や感情を司る脳の奥深くにある「大脳辺縁系」に、すぐには回復しない変化をもたらすこともあります。この脳神経系の変化のために起こる病気を「うつ病」と考えていただいてよいでしょう。ですからもちろん誰にでも起こり得るし、薬も大いに役立つわけです。



平成16年1月に厚生労働省「地域におけるうつ対策検討会」がまとめたマニュアルによると、「一般住民の約15人に一人がこれまでにうつ病を経験しているにもかかわらず、うつ病を経験した者の4分の3は医療を受けていなかった」そうです。早期発見・早期治療や支援のネットワークを作ることが重要です。脳の不調に対しては、他の身体の部分の不調と違い、何故か本人も周囲も、その人の価値や強さ弱さと結びつけて考えてしまうことが多いようです。

うつ病の症状

自分が気づく変化	周囲が気づく変化
<ul style="list-style-type: none"> ① 悲しく憂うつな気分 ② 興味かず楽しくない ③ 疲れやすい ④ 億劫で何もする気がしない ⑤ 寝つきが悪くて、目覚めが早い ⑥ 食欲の低下 ⑦ 人に会いたくない ⑧ 夕方にならないと気分が晴れない ⑨ 考えが堂々巡りする ⑩ 失敗・悲しみから立ち直れない ⑪ 自分を責める 	<ul style="list-style-type: none"> ① 以前と比べ表情が暗く、元気がない ② 身体の痛み・倦怠感などの体調不良の訴えが多くなる ③ 能率の低下・ミスの増加 ④ 周囲との交流を避ける ⑤ 遅刻・早退・欠勤が増加 ⑥ 趣味やスポーツ、外出をしなくなる ⑦ 飲酒量が増える など

診察の場面で私はよく「ヨットの帆が破れている」状態と説明します。休養加療の必要性や回復の可能性の高さ、そして同じ風（ストレス）を受け続けることの無謀さについてお話しします。

うつ病を経験され回復された方は、例え手探りであっても、自分の許容範囲を探すようになり安定される方が多いようです。

「国民約60人に一人が、現在、精神疾患のため治療を受けている。」「うつ病の治療は、ほとんどが通院ですよ。」ということも告げて、受診を拒否する方もいらっしゃると思います。それでも、根気よく接することが肝要です。

なお精神科の外来受診は、本人が承知した上でカルテを作ってくださいが必要です。お読みになっていただいた方にとって大切な方が、「うつ病ではないか」と思えるときには、十分な時間をかけてから、お連れになるのがよいだろうと思います。

職 場 紹 介

●今回は産婦人科／リハビリ科の紹介です。

産婦人科

産婦人科医長 中村 秋彦
(母子医療センター長)

産婦人科医が不足していると言われますが、当科でも昨年からは厳しい状況が続いておりました。今年2月から永田順子医長が常勤医として加わり、さらに4月からは平岩美美子医師が常勤医として加わりました。今までの中村、外村、紅露とともに常勤医4名、非常勤医師1名の体制が整いました。

産婦人科は女性を対象とする科ですが、産科と婦人科はまったく違った守備範囲を持っています。まず産科ですが昭和50年代は毎月100近い分娩がありましたが、その後の少子化にともない、この10年間は年間500～600の間を推移しています。異常の発生を予防し、また発生した場合いかに対応できるかが大切で、病院が救命救急医療を標榜している点で各科のご協力を心強く感じております。ただ正常の妊娠・分娩は生理的な営みですから、妊婦さんの要求も多様化してきており、医療と離れたところでの様々な要望に応えなくてはならなくなってきています。サービスという面では、他の領域以上に多くのものを求められており、国立病院時代の意識を変えていかなければなりません。物理的に経済的にまたマンパワーの点から難しい点も多々あるとは思いますが、関係各領域のご協力を得て努力していきたいと思っています。

婦人科も、人的に余裕ができたこと、また新任の永田医長が婦人科腫瘍学を専門分野とすることから、悪性腫瘍の治療が充実すると思えますし、今まで以上に腹腔鏡下・子宮鏡下の手術を手がけていくつもりでおります。

近隣の産婦人科の先生方からはもちろん、最近是他科の先生方からのご紹介も多く、大変感謝しております。今後ともよろしくご指導ご鞭撻お願い致します。



リハビリ科

リハビリテーション科では、整形外科を始め、脳外科、神経内科、循環器科、内科、耳鼻科、精神科と幅広い患者様の機能改善と共に日常生活の向上を目指して日々努力しているところであります。スタッフは運動療法主任1名を含む、計4名の理学療法士が勤務しております。4月1日より新任の運動療法主任が着任し、新しく心機一転頑張っていく次第であります。

近年、リハビリテーション科は、約60%は整形外科の患者様で、次いで急性期の脳梗塞、脳出血の方、開胸術、開腹術後の運動療法を中心に行っています。以前は外来の牽引療法、温熱療法が多かったのですが、国立横浜病院から、東病院との統合を経て、独法化となり横浜医療センターとして歩みだし、地域連携をしながら、更に急性期リハビリテーション施設として成長していくことを目標としています。

その一環としてリハビリ科と整形外科、脳外科、神経内科の主治医、ナースと隔週にカンファレンスをもって患者様の検討会を行っており、チーム医療を目指しています。

最後にリハビリ設備のご紹介を一部致します。リハビリテーション科には各理学療法器具がありますが、運動療法器具として、自転車エルゴメーター（カロリーカウンター付き固定自転車）、スタティックバランサー（体重負荷をパソコン画面上で確認できる装置）、各種重錘ベルト、セラバンド（運動用ゴムチューブ）、などがあります。水治療室には、過流浴装置（上肢、下肢用の気泡のマッサージつきの小型のお風呂）があり、物理療法では、各温熱療法器具（極超短波、超音波、低周波、ホットパック）、メドマー（エアーマッサージ）等があります。これらの設備と共に、スタッフ一同皆様の笑顔を励みに、運動療法の御指導をさせて頂きたくお待ち申し上げます。



行事等紹介

感謝状贈呈

山田様は神奈川県綾瀬市で花園を営まれており、当院の環境美化に役立てて欲しいと、たくさんのお花苗をご寄贈いただきました。



山田慶二氏（前列・中央）



感謝状が贈られた「山田慶二様」(前列中央)と
山田様のご長女「真理さん」と
お孫さんの「彗星」ちゃん(前列左)

◆◆◆ 医師の人事異動 ◆◆◆

退職医師名	職名	退職後の施設名	採用医師名	職名
松井 英恵	内科医師			
久保田 真司 上原 久美	精神科医長 心療内科医師	横浜市大 横浜市大大学院	立山 哲也 中川 牧子	精神科医長 精神科医師
村上 修司	呼吸器科医師	横浜市大学院	松本 裕	呼吸器科医長
岩村 国博	消化器科医師	杏林大	田部井 弘一	消化器科医師
鈴木 豪	循環器医師	東京女子医大	米村 文雄	循環器医師
福山 綾子 富田 規彦	小児科医師 〃	県立足柄上病院	能本 紀子	小児科医師
			正津 晶子	呼吸器外科医師
長嶺 弘太郎 太田 郁子	外科医師 〃	横浜市民病院	田辺 美樹子 南 裕太	外科医師 〃
樋口 三郎 藤原 豊 大関 信武	整形外科医師 〃 〃	茅ヶ崎市立病院 横須賀共済病院 相模原協同病院	村瀬 知男 葉梨 大輔 村上 恭平	整形外科医師 〃 〃
吉田 俊	脳神経外科医師			
田辺 健一	皮膚科医師	北里大	松井 矢寿恵	皮膚科医師
花村 英明	耳鼻咽喉科医師	県立がんセンター	榊原 敦子	耳鼻咽喉科医師
矢吹 幸子 西村 一彦 池田 大輔	麻酔科医長 〃 〃	みなと赤十字病院 みなと赤十字病院 東京医科歯科大		
千葉 秀幸 井上 雄介 今野 元之	臨床研修医 〃 〃	横浜市大 横浜市大 山梨大	出島 徹 吉田 佐知子 五百川 仁見 遠藤 聡 藤村 奈緒 善積 哲也 須郷 慶信 佐々木 真理 渡辺 勝	臨床研修医 (2年次) 〃 (〃) (1年次) 〃 (〃) 〃 (〃) 〃 (〃) 〃 (〃) 〃 (〃) 〃 (〃)

新任医長就任挨拶

産婦人科医長 永田 順子



2月1日より、横浜医療センター産婦人科医長として勤務しております、永田と申します。それまでは東京医科大学病院にて、婦人科腫瘍にかかわる仕事をしてきました。特に専門に行っていたのは、子宮頸部の前癌病変と子宮頸癌の診断、治療、管理および子宮鏡検査と子宮鏡下手術です。子宮頸癌は検診の普及や細胞診の発達とともに、初期で発見されることの多い癌で、上皮内癌や微小浸潤癌は30歳から40歳にピークがあり近年の女性の晩婚化とともに子宮の温存が重要なテーマとなっています。子宮頸癌の治療は期別に応じた個別化がすすんでおり、初期であれば子宮の温存が可能です。もちろんIa2期以上であれば一般的には子宮を全摘出する必要が出てきますし、リンパ節転移が問題となってきます。このような選択は女性にとって子宮を失うということばかりでなく、手術の後遺症の問題もあり、正確な診断と十分なインフォームドコンセントが必要となります。子宮粘膜下筋腫に対する子宮鏡下手術も100例ほど手がけてきましたが、これは過多月経や月経痛に悩む、粘膜下筋腫を持つ女性にとって、身体に対する負担の少ないすぐれた治療法です。

患者様が充分納得されて治療が受けられるよう、また正確な診断と最も適切な治療を提供できるよう努力していきたいと思っております。また、患者様と同じ女性ですので、安心していただけるかなとも思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

新任医長就任挨拶

外科医長 関戸 仁



平成17年3月22日付けで外科医長として赴任いたしました。

私は、昭和58年弘前大学を卒業し、横浜市立大学医学部病院で2年間研修の後、西山診療部長と同じ第二外科に入局いたしました。横浜市立大学医学部病院特別職診療医、帝京大学医学部附属溝口病院外科助手、横須賀北部共済病院外科医員を経て、平成元年6月より横浜市立大学に勤務しておりました。専門は消化器外科ですが、15年余りの大学勤務時代には、主に肝胆膵疾患の外科治療を行っておりました。

癌に対する治療では、原発性肝癌、転移性肝癌、胆嚢癌、胆管癌に対する肝切除術、膵頭部癌に対する膵頭十二指腸切除術など肝胆膵の悪性疾患に対する外科治療を行ってまいりました。

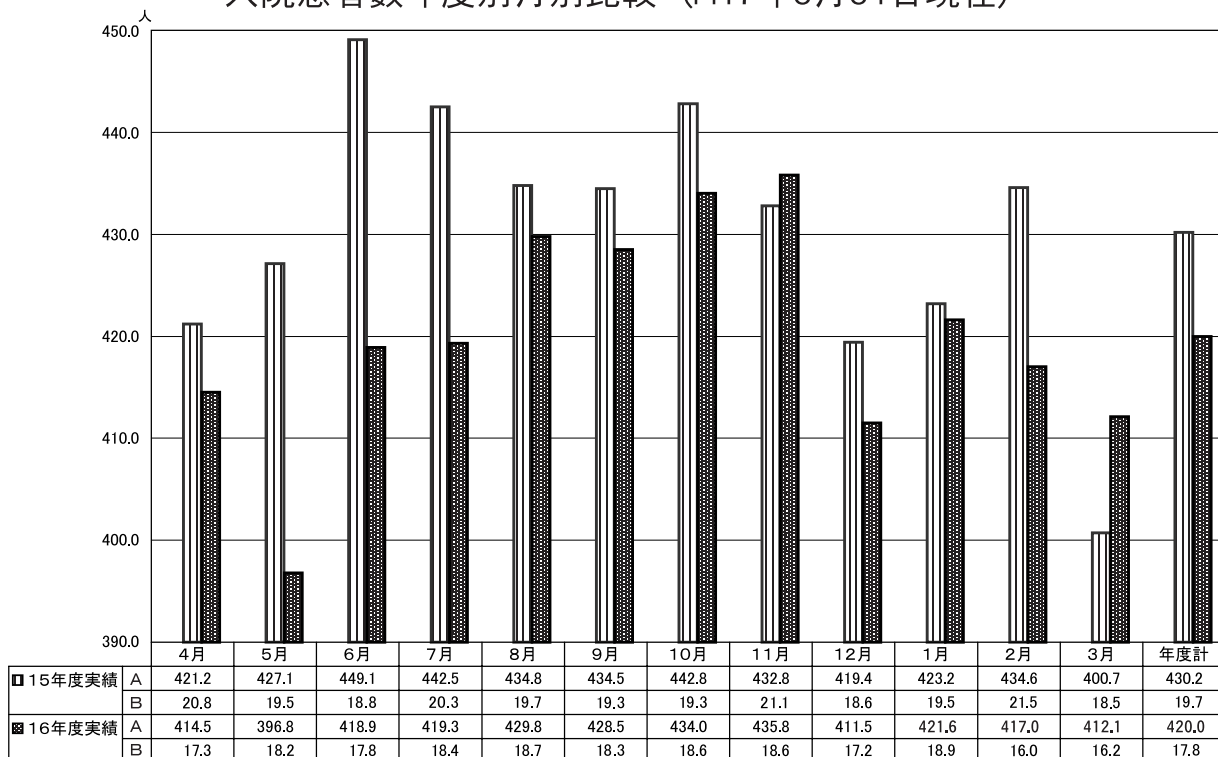
第二外科では20名の患者さんに生体肝移植を行いました。これらの患者さんの初診から周術期管理、術後外来診療までを手がけておりました。手術は20時間近くかかり、体力の必要性を痛感し現在もスポーツジムに通っております。

内視鏡外科手術では、胆石症、胆嚢ポリープに対する腹腔鏡下胆嚢摘出術、総胆管結石に対する腹腔鏡下総胆管切開切石術、特発性血小板減少性紫斑病などに対する腹腔鏡下脾摘術、巨大肝嚢胞に対する腹腔鏡下嚢胞開窓術を主に手がけて参りました。内視鏡外科手術は患者さんの負担が少なく今後も積極的に行っていく治療法と考えおります。

手術療法を必要とする消化器疾患にはすべて対応可能と考えております。戸塚区はもとより各医師会の諸先生方のご支援ご指導を賜りながら日々の診療に携わっていく所存です。宜しくご指導ご鞭撻の程、お願い申し上げます。

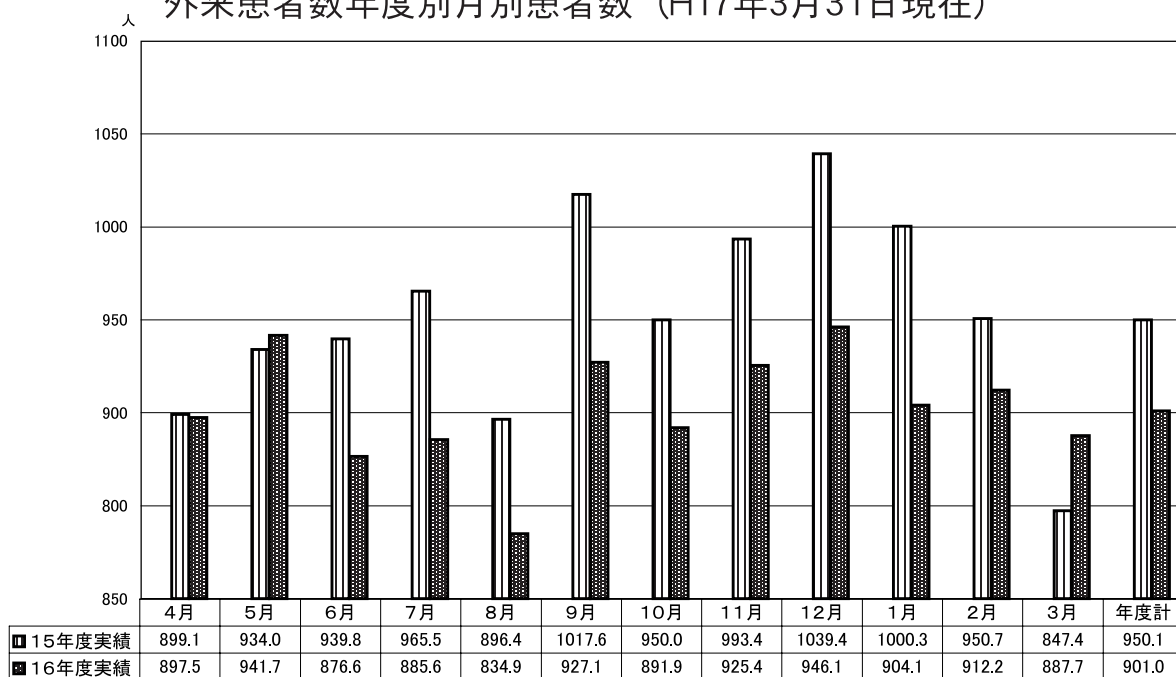
患者数の動向 ～1日平均～

入院患者数年度別月別比較 (H17年3月31日現在)



A: 一日平均患者数 B: 平均在院日数

外来患者数年度別月別患者数 (H17年3月31日現在)



編集後記

看護学校は第43回生を迎え、新年度がスタートしました。新入生だけでなく、上級生も、“看護師になる”という夢に向かって気持ちを新たにしていることと思います。新学期には学校全体に心地よい緊張感が漂います。今の気持ちを忘れずに学校生活を送ってほしいと願うところです。学生は、病院の皆様にお世話になりながら病棟や学校で成長の機会をいただいています。今後もご協力をよろしくお願いいたします。学校からも、元気一杯の学生の状況をお知らせしていきたいと思っています。

佐藤 朋子

診療科・曜日	月	火	水	木	金	備考
総合内科・初診	交代医師	笠木 陽子	高木 佐知子	大野 美香子	大野 美香子	△:午後のみ診療 ▲:紹介状持参の方のみ
内 科	高木 佐知子	松井 英恵	宇治原 誠	宇治原 誠	笠木 陽子	
神 経 内 科	上木 英人	△高橋 竜哉	検査日	上木 英人	検査日	
呼 吸 器 科	橋原 基史	検査日	松本 裕	検査日	橋原 基史	
消 化 器 科	交代医師	塚田 百合子 △小松 達司(肝)	松島 昭三 岸野 真衣子	清水 健 高山 敬子	小松 達司	《循環器科新患当番医》 (月)第1, 第3, 第5, [米村]・第2[田中]・第4[岩出] (火)田中・(水)岩出・(木)田中[岩出]・(金)加藤
循 環 器 科	青崎 正彦 巽 藤緒	加藤 文二 岩出 和徳	田中 直秀	▲田中 直秀	岩出 和徳 米村 文雄	
アレルギー科	青木 昭子	検査日	検査日	△武田 由希子	武田 由希子	
心 療 内 科	検査日	加藤 英之	検査日	小澤 篤嗣	検査日	完全予約制。受診希望の方は事前にお問い合わせ下さい。 表は再来担当医初診日は原則別の医師となります。
精 神 科	立山 哲也 中川 牧子	小澤 篤嗣	加藤 英之	立山 哲也	小澤 篤嗣	
小 児 科	伊部 正明 石田 華	渡辺 由佳 伊部 正明	伊部 正明 大濱 有子	伊部 正明 能本 紀子	渡辺 由佳 伊部 正明	
外 科	牧野 洋知 佐藤 靖郎	西山 潔 関戸 仁	◇大滝 修司 ○若杉 純一	土井 卓子 田辺 美樹子	◆高橋 俊毅 ◆山本 俊郎	◇:第2・第4水曜日 予約制 ◆:予約制 ○:毎週予約制 ★午後診療のみ
呼吸器外科					坂本 和裕	
整 形 外 科	三谷 秀俊 村瀬 知男 葉梨 大輔	日塔 寛昇 三谷 秀俊 桜井 梨江	三谷 秀俊 葉梨 大輔 村上 恭平	日塔 寛昇 村瀬 知男 桜井 梨江 村上 恭平	村瀬 知男	(受付時間)初診・予約外再診とも 8:30～10:00
形 成 外 科	高瀬 税	手術日	△高瀬 税	手術日	高瀬 税	△:手術日のため午前のみ
脳神経外科	急患のみ (手術日)	▲ 交代医師	竹本 安範	急患のみ (手術日)	藤津 和彦 市川 輝夫	▲ 第1・3・5週(火)・松永 成生 第2・4週(火)・宮原 宏輔
心臓血管外科	東館 雅文	手術日	検査日	大野 英昭	東館 雅文	
皮 膚 科	坪井 廣美 松井 矢寿恵	松井 矢寿恵	松井 矢寿恵	松井 矢寿恵	松井 矢寿恵	
泌 尿 器 科	山本 都美 本田 直康	山本 都美 本田 直康	山本 都美	山本 都美	山本 都美 本田 直康	
産婦人科	中村 秋彦 永田 順子	外村 光康 紅露 有子	中村 秋彦 外村 光康	(新患のみ) 中村 秋彦	永田 順子 中村 秋彦	
眼 科	設楽 幸治 中矢 かおり	設楽 幸治 中矢 かおり	設楽 幸治 中矢 かおり	設楽 幸治 中矢 かおり	中矢 かおり	(受付) 初診・予約外再診とも 月～木曜日 8:30～10:00 新患・急患のみとなります。金曜日 8:30～9:30
耳 鼻 咽 喉 科	山田 昌宏 榊原 敦子	山田 昌宏 榊原 敦子	手術日	榊原 敦子	山田 昌宏 榊原 敦子	
放 射 線 科	栗原 須生美 ※注①	中山 優子 ※注②	日下部 きよ子 (甲状腺外来) ※注③		中山 優子 ※注②	※注① 月曜日 8:30～11:00【完全予約制】 ※注② 火・金曜日13:30～15:00【予約は内線4900まで】 ※注③ 診察日は放射線科にお問い合わせ下さい。
歯科口腔外科	塩入 重彰 丸山 貴子	塩入 重彰 丸山 貴子	手術日	塩入 重彰 丸山 貴子	塩入 重彰 丸山貴子(午前のみ)	新患(紹介状又は、診療情報提供書を持参して下さい)【可能な限り】 新患は、火・木曜日の午前8:30～11:00まで。再診(完全予約制)。
小児	発達(福山)第2週 第4週 感染免疫・ぜんそく (伊部)	感染免疫・ぜんそく (伊部) 腎(伊藤) ※第一週	予防接種 石田・渡辺 (伊部)	乳児検診 (熊本・大濱)	喘息 (石田・渡辺) 神経(武下) ※第2週	※注④ 横浜市乳癌検診の受付: 13:30～15:00
外科	癌化学療法外来 (※注⑤)	乳腺外来 (※注⑥:8:30～11:00)	癌化学療法外来 (午前診療) ストーマ外来 ※第2週	乳癌検診 ※注④	癌化学療法外来	※注⑤ 担当医:外科土井、大田・内科青木・皮膚科坪井・婦人科紅露 女性のための総合診療をめざす外来です。 完全予約制ですので電話で予約をして下さい。婦人科は非常に混雑しているため受診を希望される方は、予約の際に必ず申し出て下さい。心療内科受診を希望する方は、女性診療外来を受診して予約を取る必要があります。お手数をおかけしますが、よろしくお願い致します。
専門外来 (午後のみ)	女性診療外来 ※注⑤		脳ドック (要予約)			※注⑥ 第2・3・4・5週:米田 13:30～ 完全予約制
産婦	母親教室			母乳外来		※注⑦ 第2・4週火曜日午後 必ず事前に連絡して下さい。
耳鼻	補聴器外来 腫瘍外来	アレルギー外来		補聴器外来	学童外来	
アルコール					交代 ※注⑥	
循環	ペースメーカー外来 ※注⑦					

初 診 受 付: 平日8:30～11:00
但し、整形外科、眼科、放射線科は上表備考のとおり
再診(予約外)受付: 平日8:30～11:00
但し、整形外科、眼科、放射線科は上表備考のとおり
休 診 日: 土曜・日曜日・祝日・12月29日～1月3日

※急患は随時受け付けます。来院前に病院にご連絡下さい。(TEL 045-851-2621)
※紹介状又は、診療情報提供書をお持ちの方は、外来受付窓口にご提示下さい。
※地域医療連携室 TEL 045-853-8355 (月～金 8:30～17:00)
TEL 045-851-2621 (時間外、土・日・祝日)
FAX 045-853-8356

お知らせ 色つき部分に変更箇所となります。ご確認の上受診ください。

《表紙》

- ・第43回附属看護学校入学式 (右上)
- ・平成17年度新採用者オリエンテーション (右下)
- ・春爛漫 (左)

《写真右》

戸塚は江戸時代には東海道の宿場として栄えており、旅籠の数も小田原に次ぐ所で江戸より10里、小田原まで10里と中間点にあるため、江戸を朝立ちして戸塚で泊まり翌朝小田原に向かって出発するので大変賑わった町でした。

又、現在の戸塚消防署とスルガ銀行戸塚支店の間は大商店が立ち並び、旅籠や遊廓等が点在していました。

